



木 木 木

千葉県 TEACCH プログラム研究会

2026年2月15日(日) 第137号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部

ホームページ：<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内

TEL :043-227-8557



第5回 連続セミナー

「成人期の自閉症・行動障害のある人の地域で 支える体制づくりに向けて～」

PDD サポートセンター グリーンフォレスト理事長

志賀 利一 氏

12月7日(日)に長年にわたり成人期の自閉症支援で幅広く御尽力されてきた志賀利一氏をお招きしてセミナーを開催しました。時代の変化と共に障害理解が進み、支援も進化している反面、地域で幸せに生活していくことが容易ではないケース(3つの大きな事件を例にして)がまだまだあることを知りました。自閉症の方の実態やその家族の様子をよく知り、社会で支えるしくみを整えることが大切であることを改めて考える良い機会となりました。

強度行動障害について

【定義】

- 自分の体を叩く、食べられないものを口に入れる、危険につながる飛び出しなど、本人の健康を損ねる行動。
- 他人を叩く、物を壊す、大泣きが何時間も続く等、周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動。
- 上記の2つの行動が著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態。
- 認定調査項目から行動関連項目10点以上を超える場合等。

【支援の状況】

- 行動障害関連の障害福祉サービス・障害児支援の利用者は122,525人(令和6年10月時点)となっている。
- 令和3年度障害者総合福祉推進事業の調査では、1年間で認定調査を受けた人のうち16%が強度行動障害、3%が著しい強度行動障害となっている。

強度行動障害の大事件の紹介

- 強度行動障害のある人と一緒に暮らすことの難しさが背景にある家族の事件2件と凄惨な福祉施設従事者虐待の事件1件を例にして、強度行動障害のある人が、地域で普通に暮らすことの難しさ、入所施設等の受け皿の少なさの現状についてお話されました。事件まで至らないまでも、「基本的な生命や心身の健康状態すら守れない」現実が、当然のように存在するのが強度行動障害のある人を取り巻く環境であるともお話されました。

アセスメントとは

だからこそ、しっかりとアセスメントをして、支援方法の検討・実践することが大切である。

【基本】

- 支援計画・方針決定のために、経過・状況を系統的に情報収集し、分析・評価するプロセスである。これまでの経緯や状況を可能な限り正確に情報収集し、分析・評価する。現在の本人や関係者の希望（家族の思い）もアセスメント対象とする。
- アセスメントは、支援計画・方針決定を的確にするための資料（わかりやすく共有できるもの）を作成するものであり、可能な限り信頼できる根拠を提供することである。方針決定は関係者の合意で決めることが一般的であるが、時には勘違いや間違った決定も予想される。その際は、再アセスメントをして次の決定場面に客観的・中立的な根拠を提出する。

【支援のマニュアル化は容易ではない】

- アセスメントは知識・技術（最新の実践・研究）だけでなく、理念・思想（時代が求める倫理・正義感）が支援に必要であると理解する。言語化が難しい理念・思想を重視せざるを得ない場合もあり、支援の現場では「経験」を共有することが難しいこともある。
- 医療や福祉の分野において、チームで共有するためには、知識・技術だけでなく理念・思想・経験に依存する部分が大きくなりがちである。ある程度抑制する効果（ある程度納得、合意できるもの）を発揮するのがアセスメントである。

アセスメントのお話のあと、「事例から学ぶ支援の実際」として、強度行動障害のある人への指導実践と変容について御紹介いただき、数多くの支援の実際を学ぶことができました。

社会が支えるしくみ

- 標準的な支援を実装した事業所が増えるだけでは、強度行動障害のある人が減っていくと断言することは難しい。必要なサービスに確実に繋がる仕組みづくりとしての地域の「体制整備」は欠かせない。
- 体制整備には、強度行動障害のある人の現状と今後のニーズについて、正確に把握する必要がある。障害福祉計画の策定指針には、実態把握が記されており、令和9年度計画には、多くの地方自治体で強度行動障害者支援の体制整備のあり方が記載される予定である。
- 令和6年度からの障害福祉サービス費の報酬に加わった「集中的支援」は、事業所単独ではなく、援護の実施者、基幹相談、拠点事業、発達障害者支援センター等が連携し、機能しなければならない。
- 今後は、実態把握と支援体制整備の計画が密接に連動することが望ましい。



令和8年度 千葉県 TEACCH プログラム研究会 第1回連続セミナー紹介

日時：2026年5月9日（土）14：00～16：30

内容：TEACCH の理念と最新の TEACCH（仮題）

講師：諏訪 利明 氏（川崎医療福祉大学教授）

会場：千葉県教育会館（千葉市中央区中央4-13-10）（予定）

【編集後記】自閉症支援、強度行動障害も含めて成人後、老後、生涯をつうじて専門的な支援が必要になってきていることを実感する講演でした。今どうしたいのか、本人と家族の思いを受け止め、一人一人同じでないことを理解して繰り返し実態を把握していくこと、時に本人や家族も自分だけのルールにとらわれてしまっていることがあり、苦しみを発信できないこともあるという事例を聞き、胸が苦しくなりました。社会で支える仕組みを整えること、TEACCH を学ぶ私たちの役割は大きいと感じました。（吉村）